

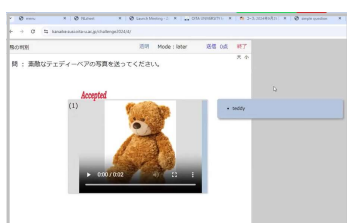
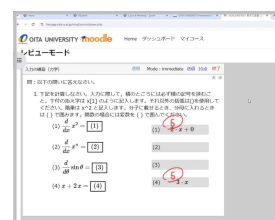
2024年度チャレンジ講座(第8回)を実施しました

9月25日(水曜日)、第8回チャレンジ講座を実施しました。今回は、理工学部近藤隆司先生に「コンピュータで学ぶ」と題して講義をしていただきました。



最初に、普段の授業で使用している教材を使い、学生がどのようなデジタル教材に取り組んでいるのかを体験しました。複数の表現方法がある数式については、正解であればどの数式でも正しいと判断してくれることに驚きました。また、数式処理ソフトMaximaを使い、方程式を解いたり、グラフを書いたりする活動を行いました。

活動の中で、最初は関数や数式の意味を理解することで精一杯だった生徒も、例文を少しずつアレンジしながら自分で考えた数式を打ち込んだり、方程式を解いたりすることができるようになり、コンピュータに問題を解いてもらうことの便利さを実感することができました。



最後に、AIによる画像の識別を体験しました。大きなテディベアの写真を送信する課題において、生徒は自分で検索した画像を送信し、その識別結果に技術の進歩を実感していました。

先生は講義において、コンピュータを学ぶのではなく、コンピュータで学ぶことに意味があるという話をしてくださりました。デジタル教材によって学びの可能性が広がることや、教材の裏にある数式処理ソフトの扱い方の入りを学んだことで、コンピュータについての興味関心が深まった講義でした。

今回のチャレンジ講座には、会場の経済学部第1実習室で4校19名、オンラインで20校178名の高校生が参加しました。感想の一部を紹介します。



○情報系の学部を志望しているので、実際に経験出来たのでとてもありがたいです。プログラミング言語など知らないものが多かったので知識をつけたいと思います。(オンラインで受講)



○初めて触れるものばかりで特に画像認識に驚きました。テディベアを判断するAIで人間なども映った画像を認識させてみたらしっかりテディベアと判断しました。このようなAIがどんどん増えて行っていると思うので、自分も学んでみたいと興味が湧きました。さらに数式処理ソフトのmaximaを使って計算式を解いてみている時など、こういうことか!と理解する場面が多く知識を深めることができました。とても良い学習ができました。(対面で受講)



※今回の記事(講義概要)は、対面で受講した宇佐高校が担当しました。